

2006年5月10日

社団法人全国高等学校PTA連合会 株式会社リクルート「キャリアガイダンス」合同調査

**第2回
「高校生と保護者の進路に関する意識調査」
(2005)
報告書Part2～自立編～**

社団法人全国高等学校PTA連合会と株式会社リクルートは、全国の高校生をもつ保護者とその子どもに対して「進路に関する意識調査」を実施しました。すでに報告書Part1として、親子コミュニケーションの実態や、進路にまつわる親と子の不安や困難等についての調査結果をご報告いたしましたが、Part2となる本書では「自立」に関する調査項目の結果をまとめています。「若者自立・挑戦プラン」や「若者自立塾」といった名称に見られるように、若者に対する政府や大人のまなざしを代表する言葉として「自立」はキーワードになりつつあります。しかしその意味については明確に語られていないのが実態です。この調査結果が今後めざすべき「自立」像を探るヒントとなればと、ここにご報告申し上げます。

社団法人全国高等学校PTA連合会

会長 藤井久丈

進路対策委員会委員長 羽鳥 亘

株式会社リクルート

進学カンパニー

カンパニー長 井上智生

調査結果サマリー

■「なぜ勉強するのかについて親子で話し合った」という高校生は23%、保護者58%。親子の認識にギャップ

生徒の自立をめざしたコミュニケーションが家庭でなされているかを探るため、「なぜ勉強するのかについて親子で話し合ったことがあるか」を親子双方に質問したところ、「ある」という生徒は23%、保護者は58%。親子の認識に大きなギャップが見られた(p.4、5)。

■「なぜ働くのかについて親子で話し合った」のは高校生17%、保護者53%。ギャップはさらに大

「なぜ働くのかについて親子で話し合ったことがあるか」について「ある」という生徒は17%、保護者は53%で、「なぜ勉強するのか」よりも話し合っていない。また、両者のギャップはさらに広がった(p.6、7)。

■「自立」について保護者から言われた記憶がある高校生は34%。65%の保護者は「子どもは自然に自立する」

保護者から「自立しなさい」と言われたことがあるか質問したところ、何事かを言われた記憶がある生徒は34%だった。一方の保護者に子どもの「自立」についての考えを聞くと、「子どもは自然に自立するもの」という回答がもっとも多く65%だった(p.8、9)。

■95%の高校生はいずれ「経済的に自立したい」。一方、「就職したら経済的に自立してほしい」保護者は62%

95%の生徒はいずれ「経済的に自立したい」と考えている。一方の保護者も同じように「経済的自立」に前向きだが、なかでもっとも多い回答は「就職したら経済的に自立してほしい」で62%だった。しかし、「経済的自立」についての考えを生徒に伝えている保護者は39%にとどまった(p.12、13)。

■「すでに精神的には自立している」という高校生が19%。保護者は生徒より「精神的自立」に消極的

「すでに精神的には自立している」という生徒は19%。「高校在学中には～」「高校を卒業したら～」までを足すと72%だった。一方、保護者は「すでに～」「高校在学中には～」「高校を卒業したら～」の合計が59%で、生徒の回答よりも低い(p.14、15)。

■高校生の30%が「子離れしないと自立できない」、17%が「そろそろ子離れしてほしい」

保護者の子離れについての考えについて、生徒の30%が「子離れしないと自立できない」、17%が「そろそろ子離れしてほしい」と回答するなど、全体的に子離れを望む声が多かった。一方の保護者は「自分は子離れしている」との回答は49%で半数に満たなかった(p.17、18)。

<注>

※【進路を考える際の気持ち】の回答別に本文では下記のように呼んでいます

- 「自分がどうなってしまうのか不安になる」の回答者→不安層
- 「自分の可能性が広がるようで、楽しい」の回答者→楽観層
- 「進路のことより、もっと考えたいことがある」「考えること自体が面倒臭い」「今は楽しければいいので先のことは考えない」の回答者→無関心層
- 「将来にいいことはなく考えてもつまらない」の回答者→悲観層

※フリーコメント末尾のカッコ内の内容は下記のとおりです

高校生コメント→(都道府県・性別・希望進路)、保護者コメント→(都道府県・続柄・子どもの性別)

<< コンテンツ >>

1. 「なぜ勉強するのか」についての話し合い

- (1)高校生 「話し合った」という生徒はわずか23%……………p4
 (2)保護者 「話し合った」という保護者は58%で、親子の認識に大きなギャップ……………p5

2. 「なぜ働くのか」についての話し合い

- (1)高校生 「話し合った」という生徒は17%。「なぜ勉強するのか」より少ない……………p6
 (2)保護者 「話し合った」という保護者は53%で、親子の認識のギャップはさらに大……………p7

3. 「自立」全般について

- (1)高校生 自立について保護者から何事かを言われた記憶がある生徒は34%……………p8
 (2)保護者 65%の保護者が「子どもは自然に自立するもの」と回答……………p9
 (3)保護者(学ぶ意味・働く意味の話し合い状況との関連) 自立に積極的な保護者は話し合っている……………p10

4. 「経済的自立」について

- (1)高校生 ほとんどの生徒が「経済的に自立したい」……………p12
 (2)保護者 「就職したら経済的に自立してほしい」保護者は62%……………p13

5. 「精神的自立」について

- (1)高校生 「すでに精神的には自立している」生徒は19%……………p14
 (2)保護者 生徒よりも「精神的自立」に消極的……………p15

6. 保護者の「子離れ」について

- (1)高校生(子離れの状況) 「親が子離れしている」と思う生徒は34%……………p16
 (2)高校生(子離れへの考え) 生徒は親に「子離れしてほしい」……………p17
 (3)保護者 「すでに子離れしている」保護者は49%……………p18

調査概要

- 調査実施者：社団法人全国高等学校PTA連合会／株式会社リクルート
- 調査対象：全国の高校2年生をもつ保護者とその子ども2620組
 - ①全国高等学校PTA連合会より依頼した10道県の公立高校各3校第2学年2クラスの高校生と保護者
 - ②編集部より直接依頼した東京都の私立高校2校第2学年全クラスの高校生と保護者
- 調査期間：平成17年9月26日～10月7日
- 調査方法：①高校生：ホームルームにてアンケートに回答
 ②保護者：高校生から保護者へアンケートを手渡し
 ③学級担任が高校生と保護者分をとりまとめ、その後学校責任者が学校分として返送
- 回収数・サンプル数：高校生2478（男子1282・女子1154）、保護者2181（父親306・母親1813・その他22）

回答者プロフィール

■高校生

- 性別：男子51.7%・女子46.6%（無回答1.7%）
- 高校タイプ：普通科58.7%・専門学科32.2%・総合学科6.6%（無回答2.5%）
- 高校卒業後の希望進路：大学・短大進学58.0%・専門学校進学19.0%・就職19.2%・フリーター0.8%・留学0.6%・その他1.2%（無回答1.2%）
- 地域分布：北海道8.4%・青森9.0%・群馬9.0%・東京8.8%・山梨9.0%・福井9.0%・愛知9.4%・奈良8.9%・岡山9.6%・佐賀9.4%・大分9.6%

■保護者

- 続柄：父親14.0%・母親83.1%・その他1.0%（無回答1.8%）
- 地域分布：北海道8.4%・青森9.3%・群馬9.3%・東京7.7%・山梨9.2%・福井9.1%・愛知9.9%・奈良8.6%・岡山8.9%・佐賀10.1%・大分9.5%

1-(1) 「なぜ勉強するのか」についての話し合い …高校生

■ 「話し合った」という生徒はわずか23%

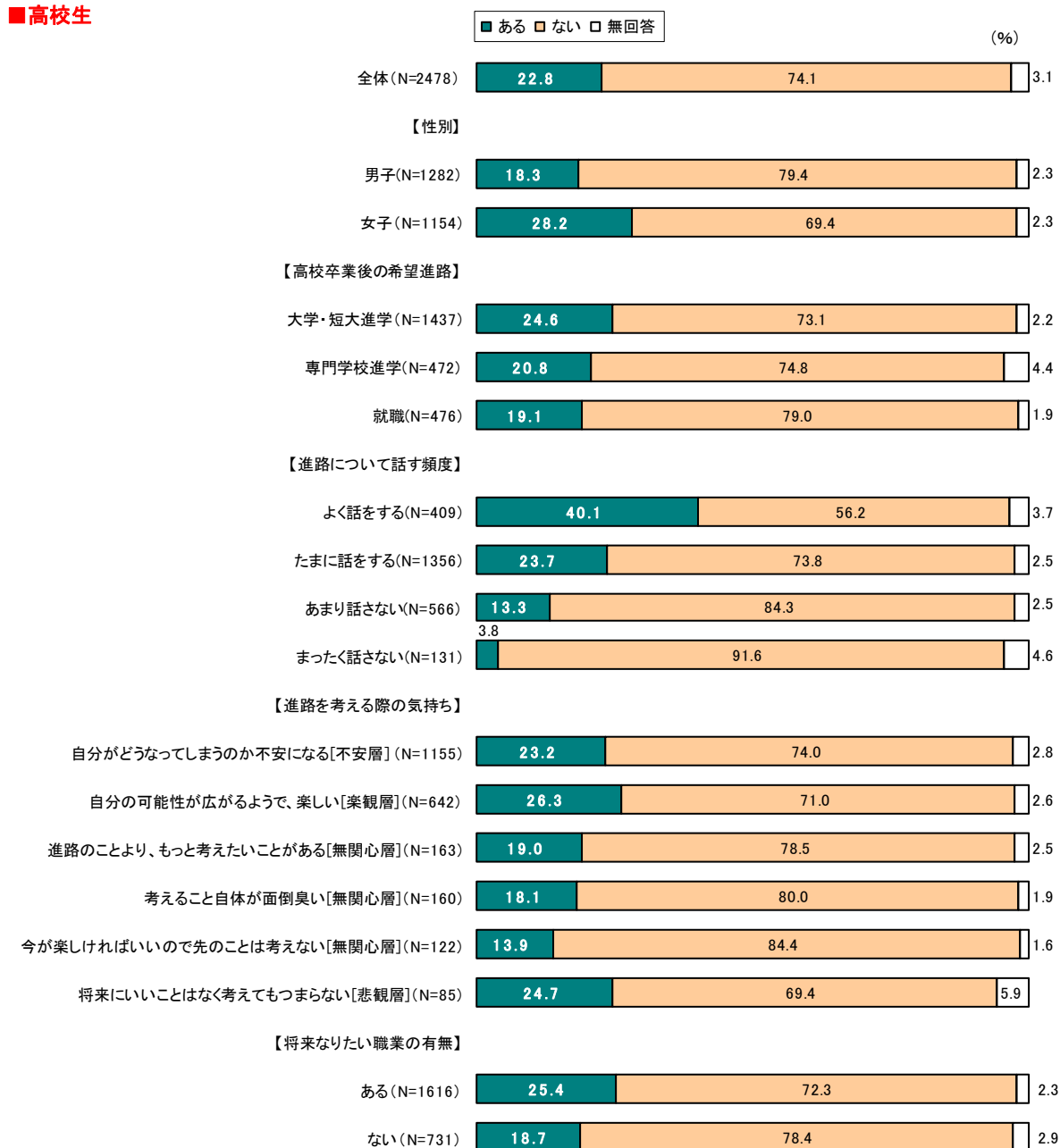
■ 進路を考えるのが楽しい生徒に「話し合った」割合が高め

生徒の自立をめざしたコミュニケーションが家庭でなされているとすれば、学ぶこと、働くことについても何らかの話し合いがあるのではないかと推察される。そうした前提のもと、その2つを選択肢に入れた。

「なぜ勉強するのか」について親子で話し合ったことがあるか、という問いに対して、生徒の回答は「ある」が23%ときわめて少なかった。【性別】では女子が、【希望進路】では大学・短大進学希望者が比較的多い。【進路について話す頻度】別では、進路についてよく話すほど「なぜ勉強するのか」も話し合っている。また、【進路を考える際の気持ち】で人数として最大の「自分がどうなってしまうのか不安になる」(以下、不安層)と人数として2番目の「自分の可能性が広がるようで楽しい」(以下、楽観層)を比べると、不安層よりも楽観層のほうが「なぜ勉強するのか」を話し合っている傾向が強かった。

Q. 「なぜ勉強するのか」というテーマを親子で話し合ったことがあるか

■ 高校生



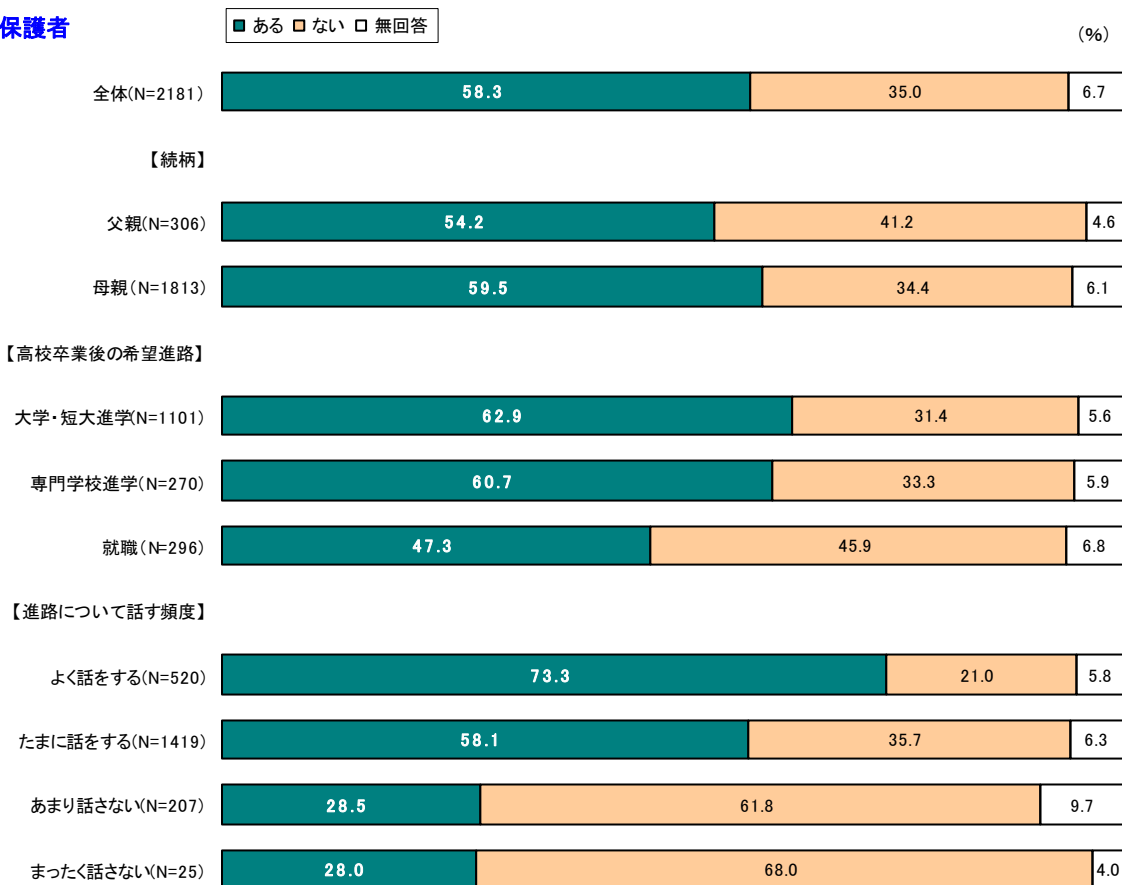
1-(2) 「なぜ勉強するのか」についての話し合い …保護者

■ 「話し合った」という保護者は58%で、親子の認識に大きなギャップ

一方の保護者は、58%が「なぜ勉強するのか」について親子で話し合ったことが「ある」と回答。同様の質問に対する生徒の回答率23%との、大きな開きが見られた。理由の1つとして、この問いの受け取り方の違いが考えられる。親が考え方を伝えても、それが一方的だった場合、生徒には話し合ったという印象が残っていない可能性がある。「58%の親が考えを伝えたが、それを納得した生徒は23%だった」という仮説が立てられそうだ。

Q. 「なぜ勉強するのか」というテーマを親子で話し合ったことがあるか

■ 保護者



>> 「なぜ勉強するのか」というテーマで話し合った具体的な内容 (保護者コメント)

○希望する職業に就くためには基礎的な知識が必要だから、選択の幅を狭めないために勉強はしておいた方がよい (群馬・母、男子) / ○社会に出た時、あらゆる知識が自分の力となり、物事をスムーズに進める事ができる。知識や情報が自分に自信を持たせてくれる (青森・母、男子) / ○高校生になってからは話していません。幼い頃、小学校低学年に話し終わっている事ではないでしょうか? (北海道・母、男子) / ○人は知りたいと思うことを心に持っている。昔の人や、世界には学びたくても学ぶ事のできない方達がいる。今、当たり前のように学校に行っているが、親に感謝して、友人関係を築いてほしい (北海道・母、男子) / ○やはりこの世の中、学歴が最優先だから (東京・母、女子) / ○勉強していて学歴を付けると力仕事をせずに済むと言ってしまいます (山梨・母、男子)

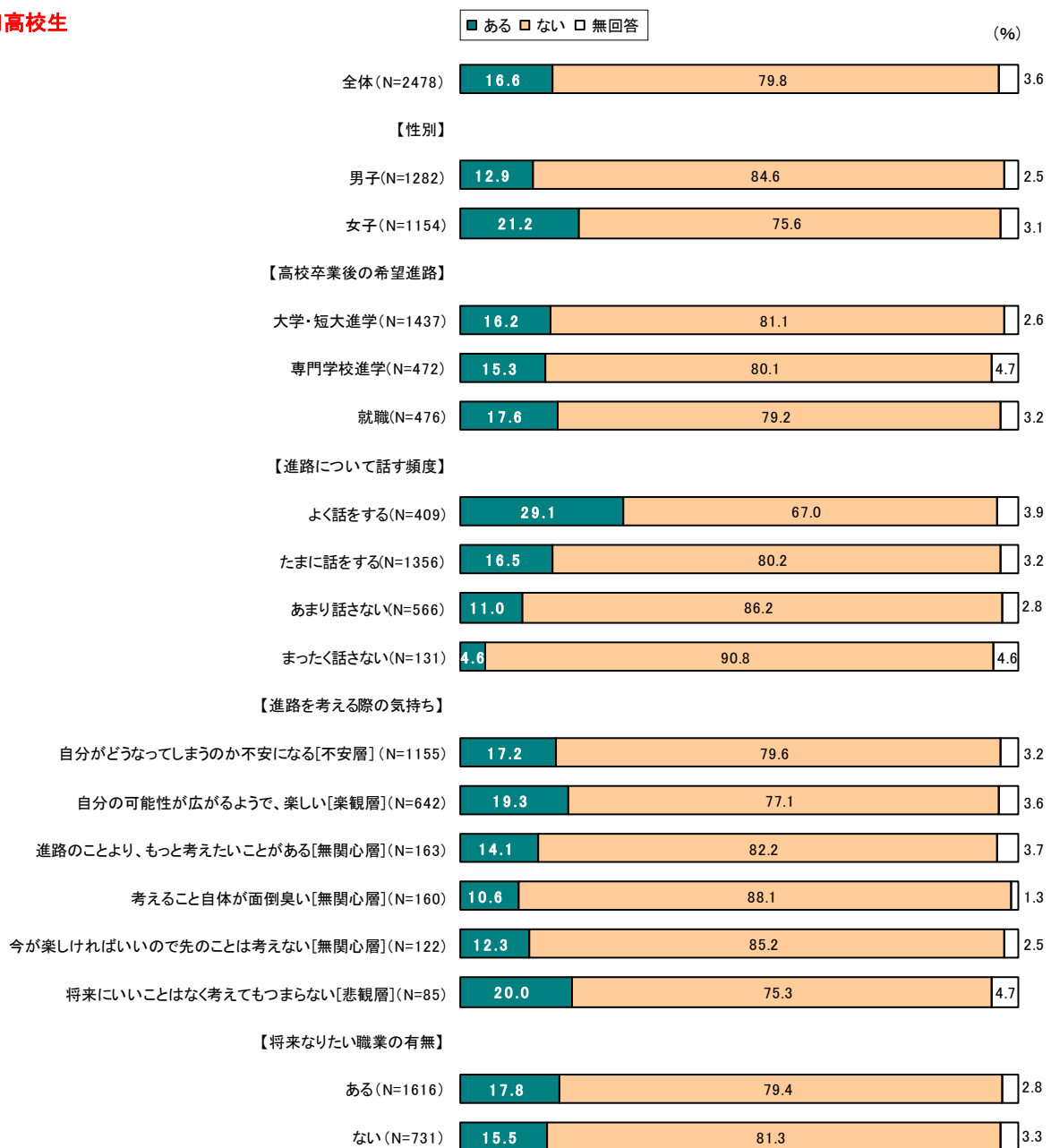
2-(1) 「なぜ働くのか」についての話し合い …高校生

■ 「話し合った」という生徒は17%。「なぜ勉強するのか」よりも話し合う機会が少ない

「なぜ働くのか」についても、話し合いの有無を親子それぞれに聞いた。生徒の「ある」という回答は17%で、「なぜ勉強するのか」よりもさらに少ない結果となった。少ないながらも、【性別】では女子が、【希望進路】では就職希望者が比較的多い傾向を示した。【進路について話す頻度】別では、進路についてよく話すほど「なぜ働くのか」についてもよく話し合っている。【進路を考える際の気持ち】とのクロスデータは、前章「なぜ勉強するのか」の話し合いと同様の傾向を示し、不安層よりも楽観層のほうが話し合っている比率がやや高い。また、「将来にいいことはなく考えてもつまらない」という層(以下、悲観層)は話し合っている比率が比較的高く、「考えること自体が面倒臭い」「進路のことより、もっと考えたいことがある」「今が楽しければいいので先のことは考えない」という層(これらをまとめて以下、無関心層)は概して比率が低い。

Q. 「なぜ働くのか」というテーマを親子で話し合ったことがあるか

■ 高校生



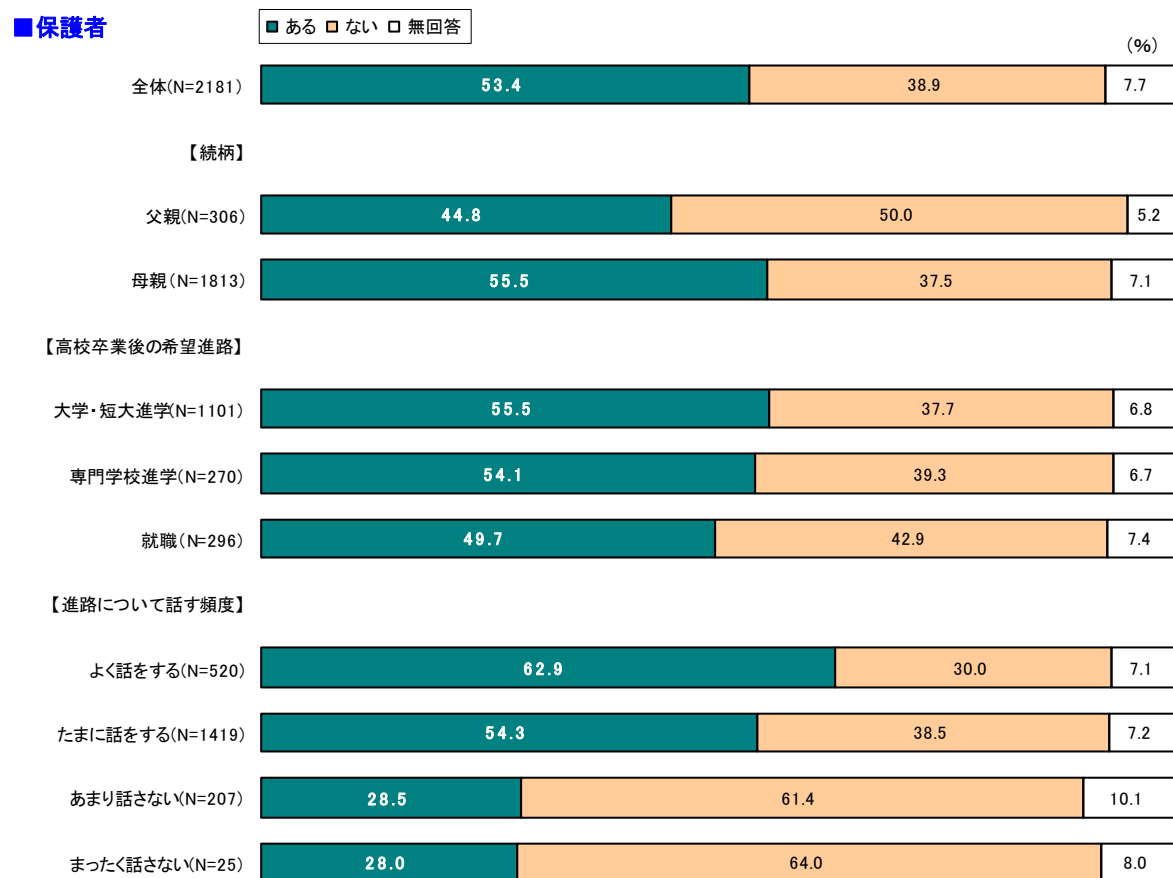
2-(2) 「なぜ働くのか」についての話し合い …保護者

- 「話し合った」という保護者は53%で、親子の認識のギャップはさらに大
- 父親よりも母親が、働く意味を話している

一方の保護者の回答を見ると、「なぜ働くのか」について話し合ったことが「ある」との回答は53%。生徒同様、前章「なぜ勉強するのか」よりも話し合われていないという結果となった。ここでも生徒とのギャップが激しく、前章と同じ考え方をするならば「53%の親が考え方を伝えたが、それを納得した生徒は17%だった」という仮説が立てられそうだ。

また、【続柄】を見ると、母親よりも父親のほうが「ある」が少ないことが目につく。

Q. 「なぜ働くのか」というテーマを親子で話し合ったことがあるか



>> 「なぜ働くのか」というテーマで話し合った具体的な内容 (保護者コメント)

○楽しい人生を送りたいと思うなら、生活に余裕がなければならない (青森・父、女子) / ○生きていく中で、働くことは大切である。向上心により自分を磨き、生活が円滑に、また自分が目標達成することによって、喜びに変わり視野も広がる (群馬・父、女子) / ○人として生活していく上で、最低の義務である (群馬・母、男子) / ○生きるということは、家族の中でそれぞれ役割があるということ。結婚し家庭を持てば、夫婦で家計を支える役割を自分で作ったことになる。子どもを持てば、自活までを導く責任があるなど、いろいろです (愛知・母、男子) / ○社会で生きるのは誰かの世話になるということ。世話になるには対価が必要で、その対価が仕事。自分も社会の輪の中で循環するなら、働くのは大切 (愛知・母、女子) / ○世の中一人前に働いて、納めるものを納めないと認められない (大分・母、女子) / ○自分のしたいことをするためには、お金が必要でしょ? (岡山・母、女子)

3-(1) 「自立」全般について …高校生

■ 自立について保護者から何事かを言われた記憶がある生徒は34%

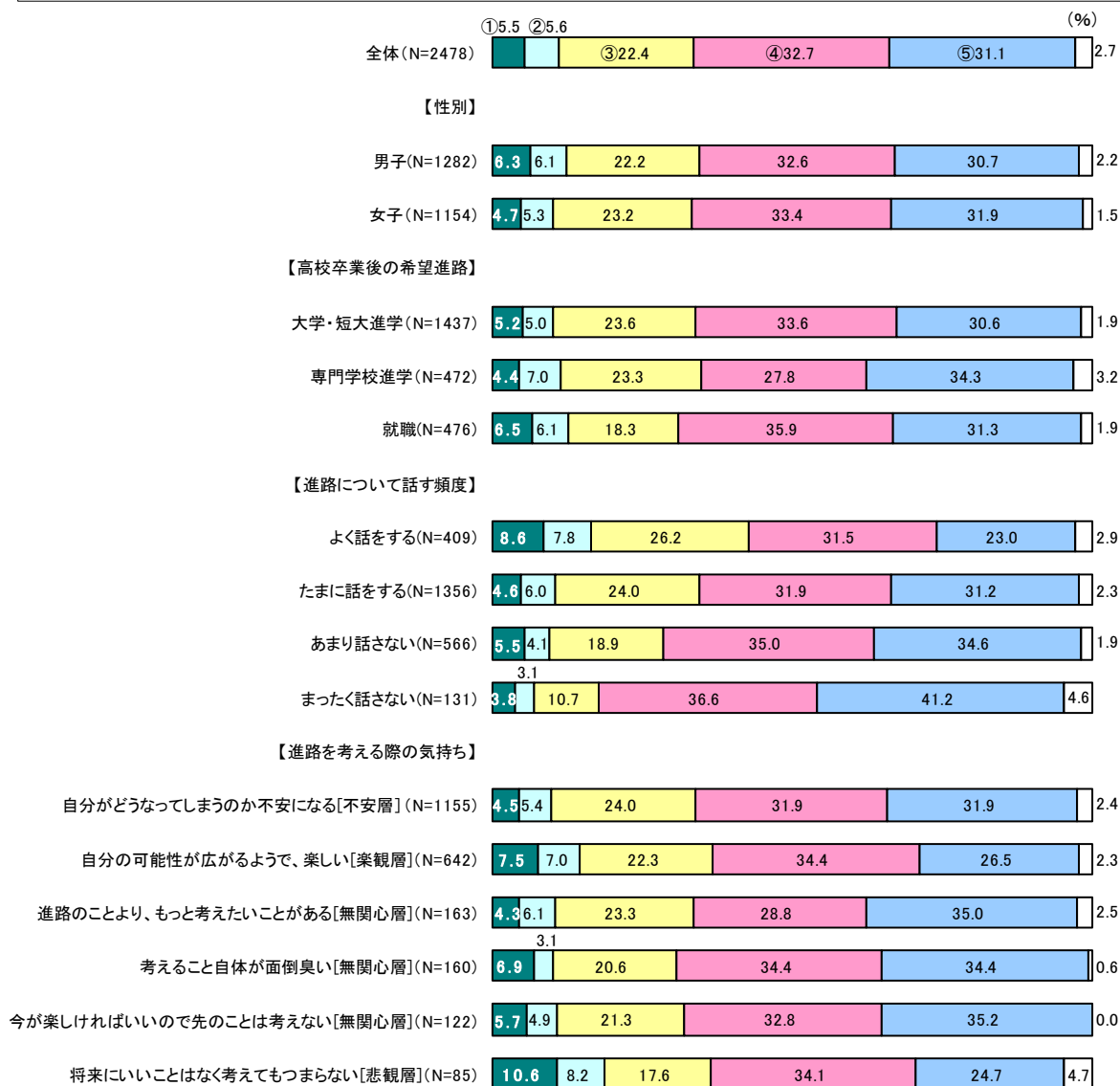
保護者から「自立しなさい」と言われたことがあるかを生徒に質問したところ、「①小さい頃からよく言われる」「②最近よく言われるようになった」「③今までに何度か言われたことがある」の回答の合計は34%だった。残りは「④『自立』については何も言われたことはない」33%、「⑤言われたかもしれないが記憶にない」31%。つまり「自立について保護者から何事かを言われた記憶がある」という生徒は34%ということになる。

【希望進路】別に見ると、就職希望者は「①小さい頃から～」は高いが、「②最近よく～」「③今までに何度か～」は比較的少なく、トータルで見ると進学希望者よりも言われている比率は低い。【進路を考える際の気持ち】別では「将来にいいことはなく考えてもつまらない」という悲観層が、「①小さい頃から～」の比率がもっとも高い。不安層と楽観層とでは、楽観層のほうがやや自立を促されている傾向がある。

Q. 保護者から「自立しなさい」と言われたか

■ 高校生

- | | | |
|-------------------------|---------------------|---------------------|
| ■ ①小さい頃からよく言われる | □ ②最近よく言われるようになった | ■ ③今までに何度か言われたことがある |
| □ ④「自立」については何も言われたことはない | □ ⑤言われたかもしれないが記憶にない | □ 無回答 |



3-(2) 「自立」全般について …保護者

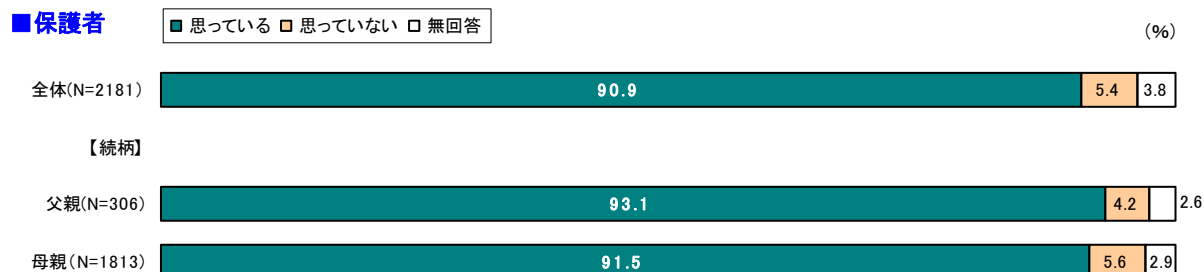
- 65%の保護者が「子どもは自然に自立するもの」と回答
- 子どもの自立に積極的な保護者はわずか12%

子どもに「自立」や「親離れ」をしてほしいと考える保護者は91%だった。

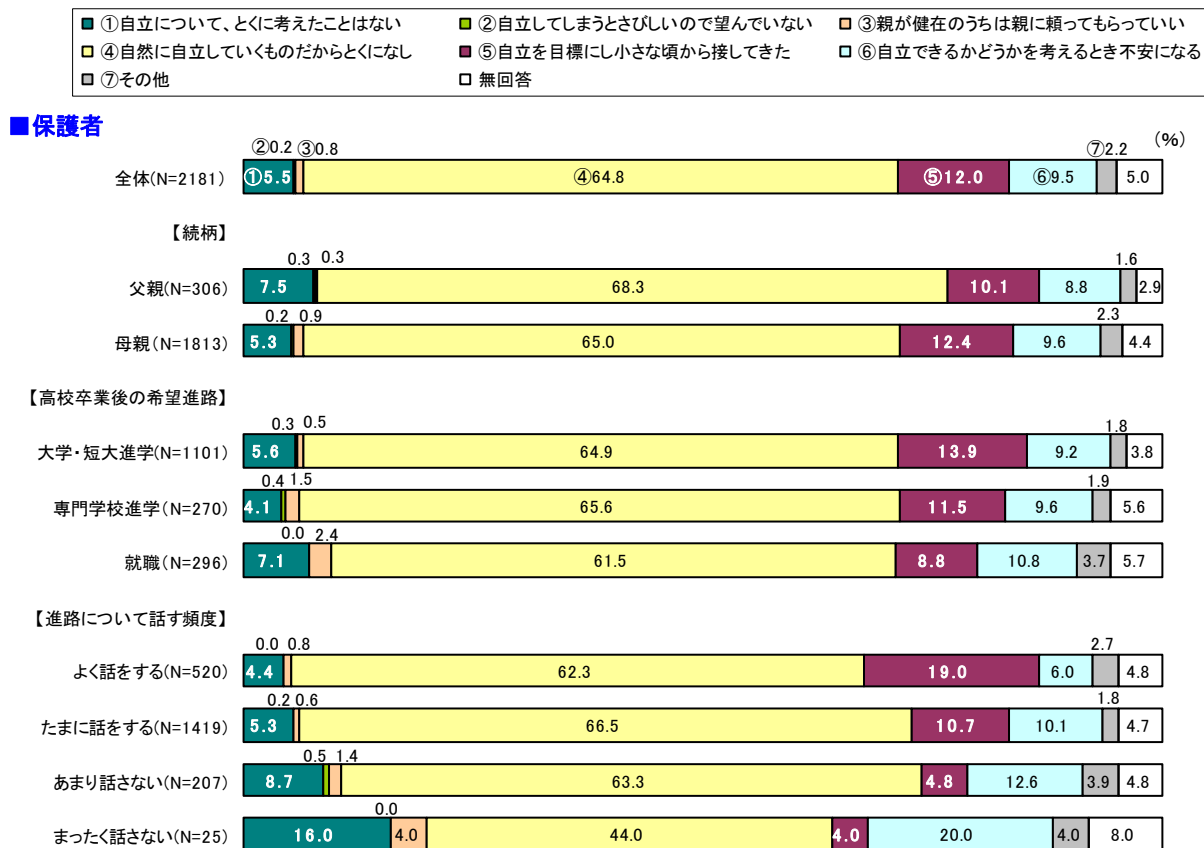
その考えにもっとも近い気持ちを具体的な選択肢から選んでもらったところ、もっとも多かったのは「④自然に自立していくものだから、とくに心配したり、心がけていることはない」で65%。次いで「⑤自立を目標にし小さな頃から接してきた」が12%、「⑥子どもが自立できるかどうかを考えると不安になる」が10%で続いた。自立してほしいという気持ちを多くの親が持っているが、積極的に行動しているのは「⑤自立させることを目標に～」と回答したわずか12%だということがわかる。

この「⑤自立させることを目標に～」という保護者は、【続柄】では母親にやや多く、【希望進路】では大学・短大進学希望者がもっとも多く分布している。また、【進路について話す頻度】を見ると、話す頻度が高いほど「⑤自立させることを目標に～」の比率が高い。そして話さないほど「①自立について、とくに考えたことはない」が増える。

Q. 生徒に「自立」や「親離れ」をしてほしいと思うか



Q. 生徒の「自立」について保護者の考え



3-(3) 「自立」全般について …保護者(学ぶ意味・働く意味の話し合い状況との関連)

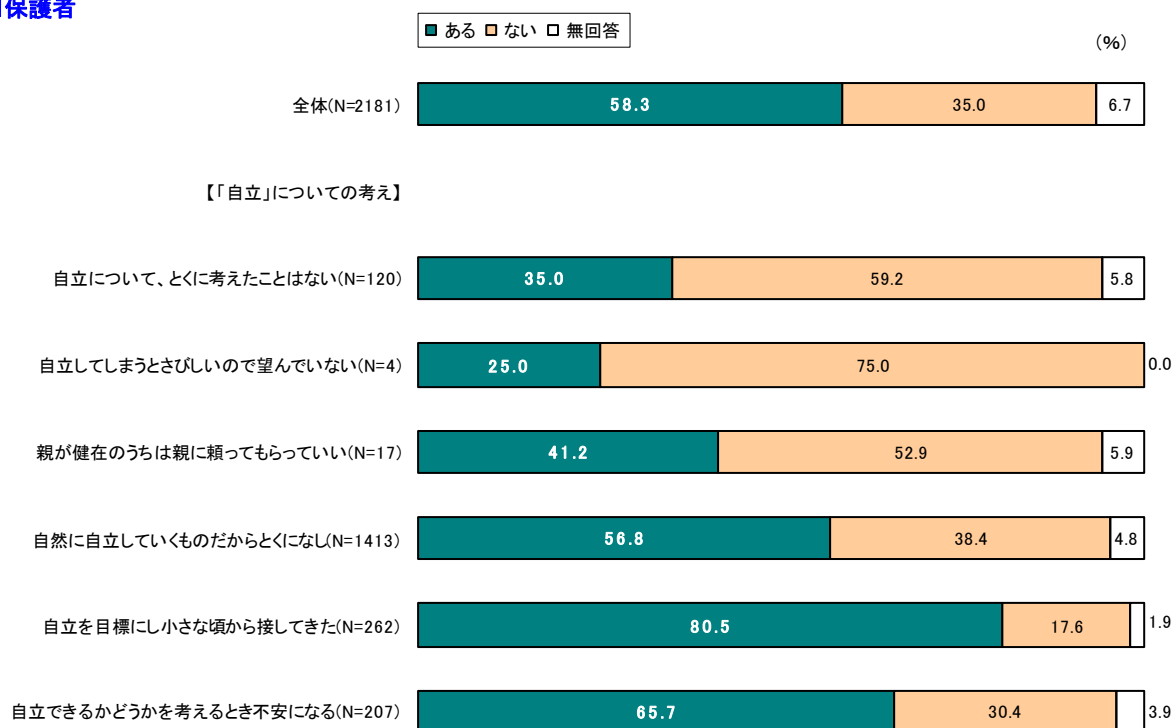
■ 子どもの自立に積極的な保護者は、学ぶ意味・働く意味について子どもと話し合っている

子どもの自立についての保護者の考え別に、「なぜ勉強しなければならないのか」をテーマにした話し合いの状況を見てみる。話し合ったことが「ある」がもっとも多かったのは、「自立を目標にし小さな頃から接してきた」という保護者で8割を超えている。一方、話し合っている比率の低さが目立つのは「自立してしまうとさびしいので望んでいない」25%、「自立について、とくに考えたことはない」35%など。

「なぜ働くのか」についての話し合いの状況でも、同じような傾向が見られる。「自立を目標に～」という保護者は話し合ったことが「ある」が約8割と最も多く、「自立してしまうとさびしい～」、「自立について、とくに考えたことはない」は少なかった。

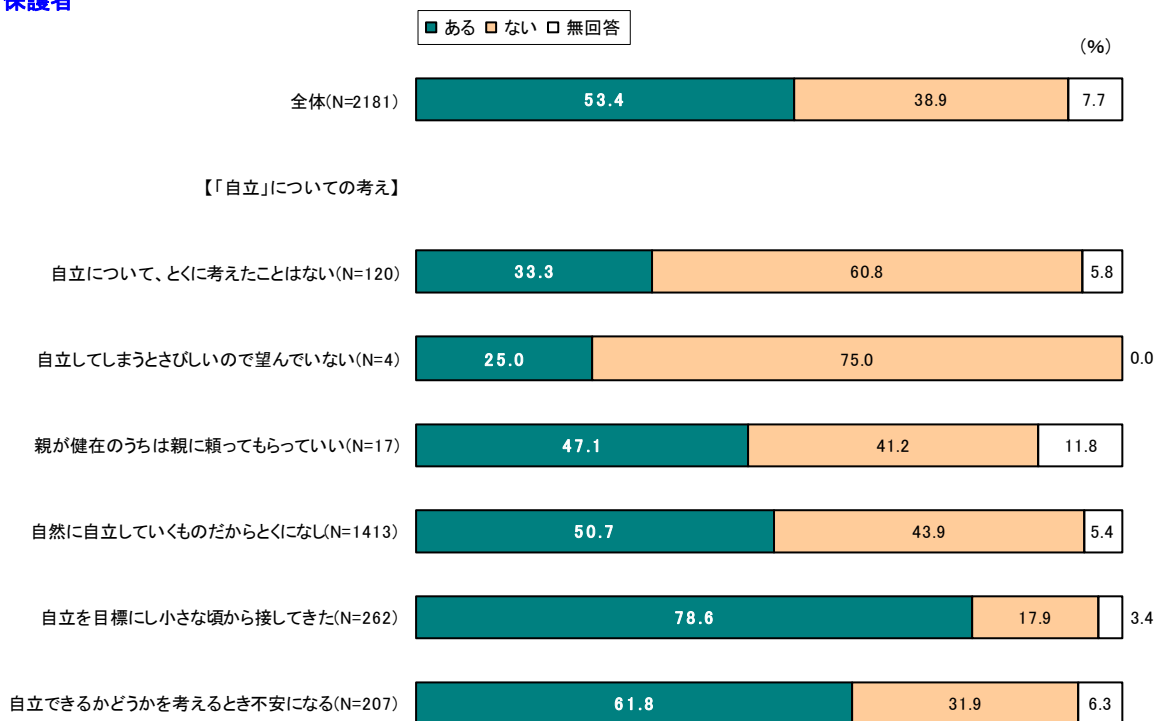
Q. 「なぜ勉強しなければいけないのか」というテーマを親子で話し合ったことがあるか(「自立」についての考え別)

■保護者



Q. 「なぜ働くのか」というテーマを親子で話し合ったことがあるか(「自立」についての考え別)

■保護者



4-(1) 「経済的自立」について …高校生

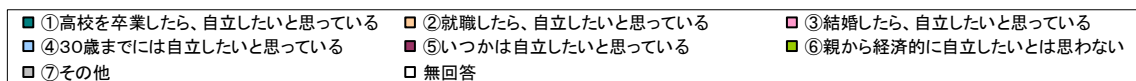
■ ほとんどの生徒が「経済的に自立したい」

本調査では、自立をさらに「経済的自立」と「精神的自立」とに分けて質問肢を設けている。まず、「経済的自立とは、実家を出て経済的に自立すること」と定義し、親子の双方に考え方を聞いた。生徒の回答を見ると、「①高校を卒業したら、自立したいと思っている」が25%、「②就職したら～」まで含めると73%だった。さらに「③結婚したら～」「④30歳までには～」まで足上げると81%、「⑤いつかは～」まで含めれば95%となり、全体的に生徒の「経済的自立」への意識は前向きで、比較的早い達成を望んでいることが読み取れる。

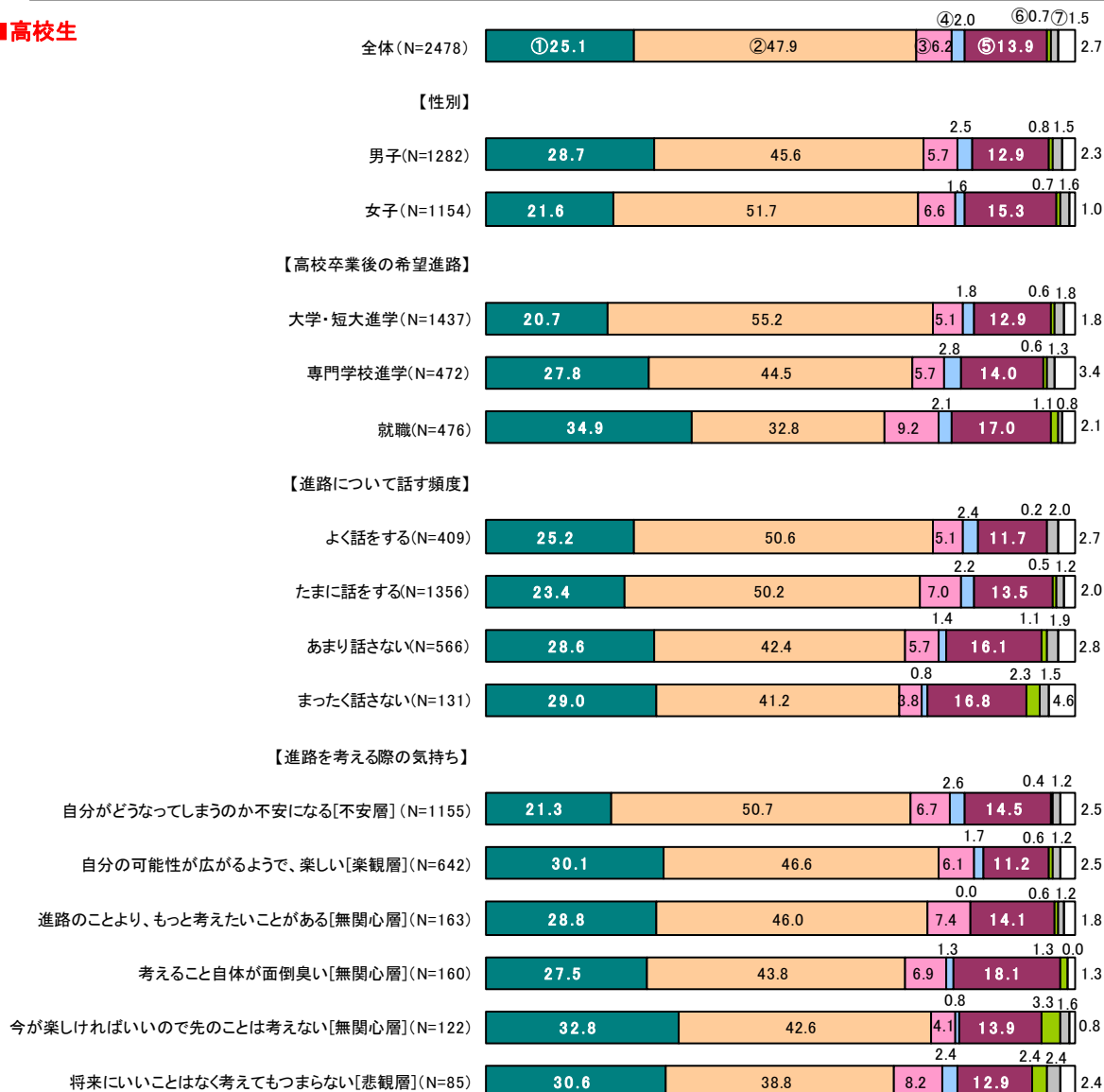
【性別】では男子のほうが進んでいる部分もあるが、概して女子も遜色ない意識がうかがえる。【希望進路】別に見ると、「①高校を卒業したら～」は就職希望者が高いが、次の段階の「②就職したら～」まで含めると進学希望者のほうが高くなる。【進路を考える際の気持ち】で「①高校を卒業したら～」がもっとも低いのは不安層。進学希望者が多く含まれているという要因もあるが、楽観層に比べて保護者に依存する傾向が強い可能性も考えられる。

Q. 自分自身の「経済的自立」についてどう考えているか

(%)



■ 高校生



4-(2) 「経済的自立」について …保護者

- 「就職したら経済的に自立してほしい」保護者は62%
- 経済的自立について子どもに「伝えている」保護者は39%で少数派

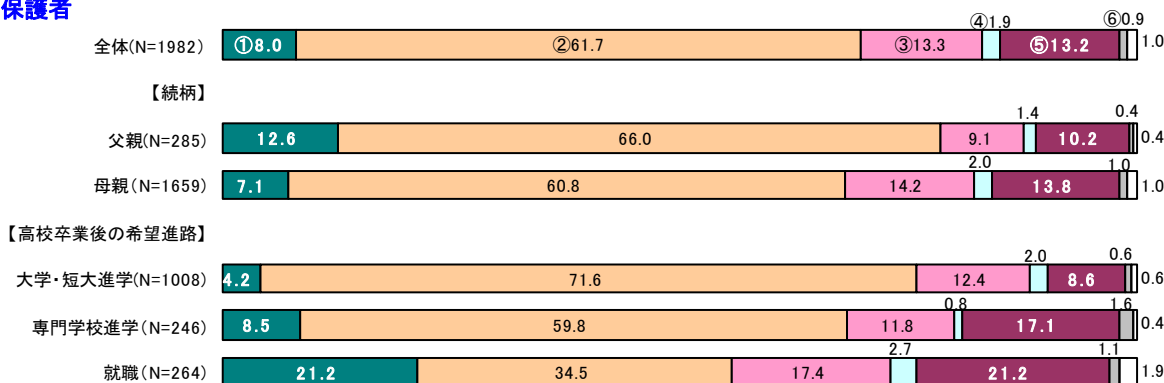
保護者の「経済的自立」についての回答を見ると、「①高校卒業したら自立してほしい」は8%と少ないが、「②就職したら～」まで足すと70%となり、生徒の回答とほぼ等しい。「③結婚したら～」「④30歳までには～」まで含めると85%になり、生徒をやや上回る程度で、生徒と保護者はほぼ同じような意識でいるようだ。【希望進路】別も生徒と同じような傾向がうかがえる。

保護者にはさらに、その「経済的自立」についての考えを子どもに伝えているか、という質問もしたところ、「伝えている」が39%と少数派だった。「伝えている」は、父親よりも母親に、就職希望者より進学希望者に多い。

Q. 生徒の「経済的自立」についてどう考えているか (%)

- ①高校卒業したら自立してほしい
- ②就職したら自立してほしい
- ③結婚したら自立してほしい
- ④30歳までには自立してほしい
- ⑤いつかは自立してほしい
- ⑥その他
- 無回答

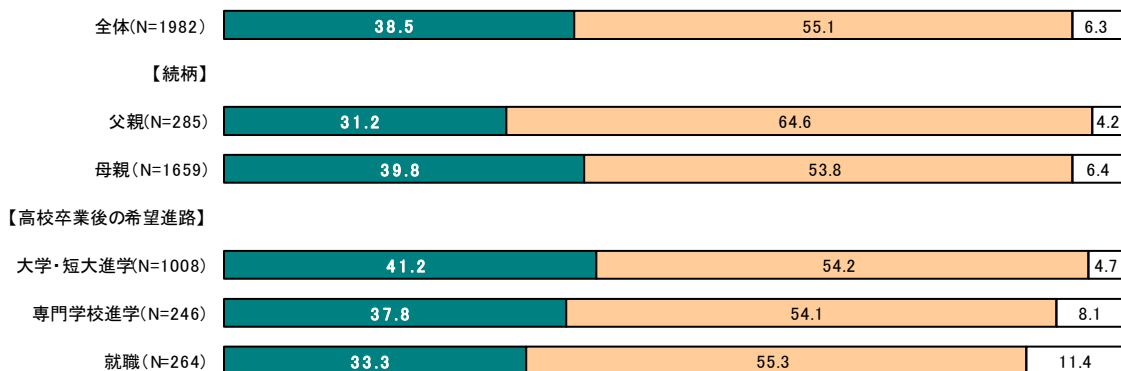
■ 保護者



Q. 「経済的自立」についての考えを生徒に伝えているか

■ 保護者

- 伝えている
- まだ伝えてない
- 無回答



>> 「経済的自立」について、生徒に伝えている内容 (保護者コメント)

○親元を離れて、自分の甘さ、厳しさを考えてほしい (北海道・父母以外、男子) / ○親は先に死ぬ (青森・母、女子) / ○大学までの学費は援助するが、卒業後は自分で生活していくように (青森・母、男子) / ○男性を頼らず、1人の人間として自立して行ってほしい (東京・母、女子) / ○いつかは親から離れ、自分の家族、自分を守る人を持ってほしい (愛知・母、女子) / ○25歳になったら家を出て、1人で暮らすこと (愛知・母、男子) / ○30歳まで結婚しないのなら、1人で住まいを借りて生活しなさい! (愛知・母、女子) / ○親は老後の計画を立てているので、それを理解してもらっている (愛知・母、女子) / ○自分の好きな生活をしたのならば、自分で暮らすことだね (奈良・母、女子) / ○交通事故など、いつどうなるかわからない状況の中で、何があっても困らないよう、1人で生きていけるように考えてほしい (北海道・母、男子)

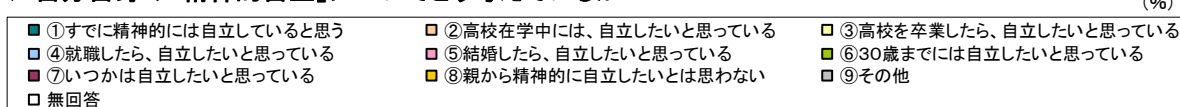
5-(1) 「精神的自立」について …高校生

- 「すでに精神的には自立している」生徒は19%
- 「高校在学中には」「高校を卒業したら自立したい」を加えると72%

「精神的自立とは、自分のことは自分で判断すること」と定義し、親子それぞれに考えを聞いてみた。生徒の回答を見ると、「①すでに精神的には自立していると思う」は19%。「②高校在学中には～」という生徒まで足すと42%、「③高校を卒業したら～」まで加えると72%になる。

「①すでに精神的には自立している～」と回答した高校生に注目すると、【性別】では男子に、【進路について話す頻度】では保護者と話さないほど多くなる傾向がある。【進路を考える際の気持ち】別でもっとも多いのは「将来にいいことはなく～」という悲観層だ。これらの結果から、精神的自立の種類として、子の自立に理解のある保護者との良好な関係のもとでの自立と、自分のことは自分で判断せざるを得ない状況での自立とがあるとすると、どちらかといえば後者が多いと考えられる。

Q. 自分自身の「精神的自立」についてどう考えているか



■ 高校生



5-(2) 「精神的自立」について …保護者

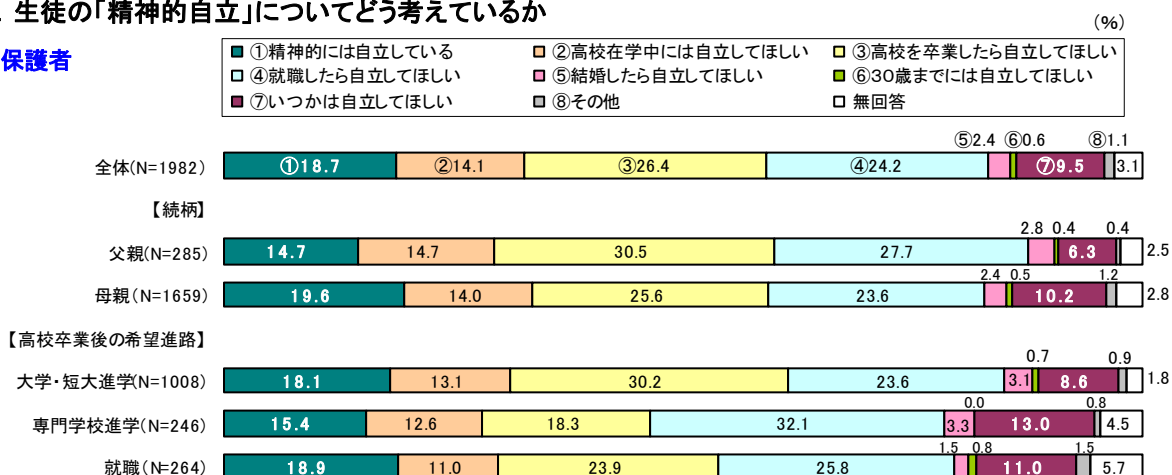
- 生徒よりも「精神的自立」に消極的
- 「精神的自立」を説く父親はわずか2割

保護者にも子どもの「精神的自立」についての考えを聞いたところ、「①精神的には自立している」は生徒と同じ19%が回答した。しかし、それに「②高校在学中には自立してほしい」と「③高校を卒業したら～」を加えても59%で、生徒の回答の72%には及ばない。

さらに「精神的自立」についての考えを子どもに伝えているかも聞いた。「伝えている」と回答した保護者は27%で、「経済的自立」についての同じ質問を10ポイント以上も下回る結果となった。とくに父親で21%と低さが目立つ。

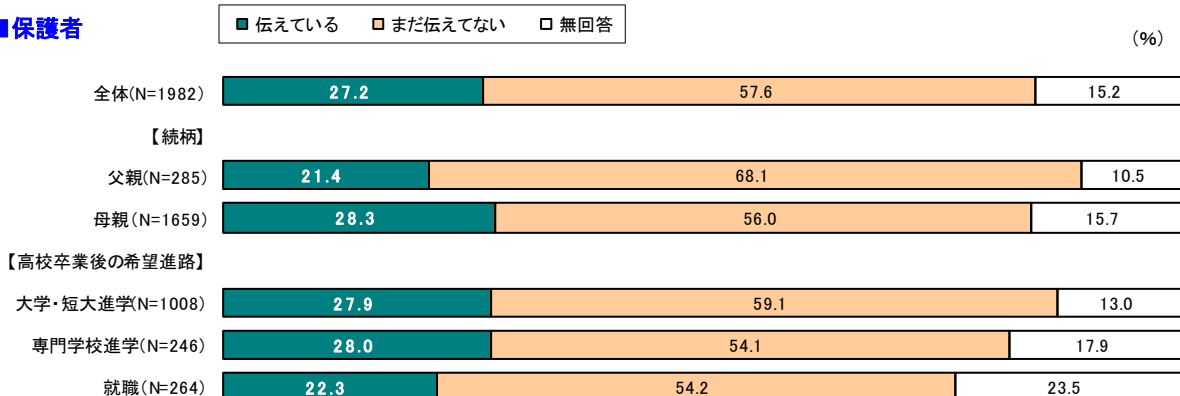
Q. 生徒の「精神的自立」についてどう考えているか

■ 保護者



Q. 「精神的自立」についての考えを生徒に伝えているか

■ 保護者



>> 「精神的自立」について、生徒に伝えているか (保護者コメント)

○自分のことは自分で決めているように見えますが、結果的に責任を取っていませんので、自分で判断したことは悪くても自分で責任を取るよう、言っています。他人のせいにするのをやめるように言っています (愛知・母、男子) / ○具体的に1つ1つを生活の中で伝えて今日に至っている…ということで、自分の子として誕生した日から喜びと共に伝えてきたように感じています (青森・母、女子) / ○自分のことは自分で考えて、答えが見つからない時は相談するように (北海道・母、男子) / ○20歳までは親が責任を取るけれど、それ以後は自分で取らないといけないよ (奈良・母、女子) / ○いつか親になった時に始めても遅い。今から積極的に意識して行動しないと (東京・母、女子) / ○人に言われて、自分の意見が変わるようではいけない (愛知・母、男子)

6-(1) 保護者の「子離れ」について …高校生(子離れの状況)

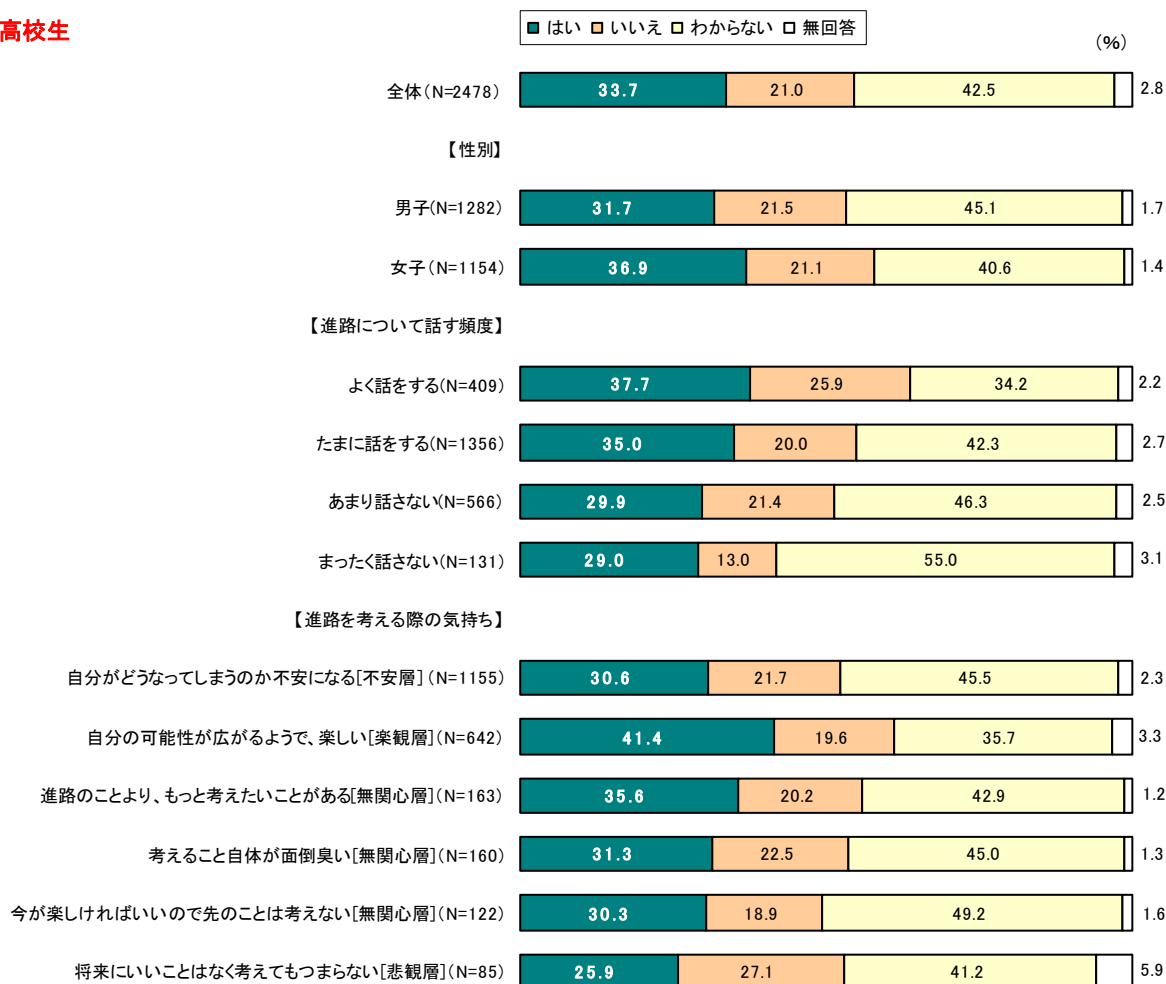
- 「親が子離れしている」と思う生徒は34%で、「していない」21%を上回る
- 親が干渉的なほど、生徒の進路を考える気持ちは不安・悲観に傾く

「子離れ」を「親が子どもの自主性を尊重して、子への過剰な干渉をやめること」と定義し、子どもから見た親の子離れ、親自身を感じている子離れについてそれぞれ尋ねた。

生徒に保護者が子離れしているかどうかを聞いたところ、もっとも多い回答は「わからない」の43%だった。これを除けば、「はい」34%、「いいえ」21%で、子離れしていると見ている生徒のほうが多い。【進路について話す頻度】別に見ると、よく話すほど「わからない」が少なく、その分「はい」も「いいえ」も増える傾向にある。【進路を考える際の気持ち】別では、「はい」が最多なのは楽観層で、「いいえ」が最多なのは悲観層。さらに最大グループの不安層は、楽観層と比べ「はい」がかなり少ない。これらから、親が子離れするほど生徒の進路を考える気持ちは楽観的になり、親が干渉するほど生徒は不安・悲観に傾くという見方ができそうだ。

Q. あなたの保護者は「子離れ」をしていると思うか

■ 高校生



6-(2) 保護者の「子離れ」について …高校生(子離れへの考え)

■ 生徒は親に「子離れしてほしい」

■ 悲観層に目立つ「放っておかれているような気がする」の多さ

保護者の子離れについて生徒の考えを選択肢から選んでもらったところ、もっとも多かったのが「③『子離れ』しないと『自立』できない」で30%。2番目に「⑨どう考えればいいのかよくわからない」、3番目に「②そろそろ『子離れ』してほしい」で、全体的に子離れを望む意識のほうが強いことがわかる。

【進路を考える際の気持ち】別に見ると、「将来にいいことはなく～」という悲観層に「①放っておかれているような気がする」が際立って多い。この悲観層は、自分の親の子離れの状況について「いいえ」が最多だった(前ページ参照)。2つの結果から、悲観層の保護者には放任型と過干渉型の2つのタイプが混在していることが推測できる。

Q. あなたの保護者の「子離れ」についてどう考えているか(3つまで回答)

■ 高校生

(%)

	①放っておかれているような気がする	②そろそろ「子離れ」してほしい	③「子離れ」しないと「自立」できない	④「子離れ」しないと親子関係がうまくいかない	⑤保護者にはまだ「子離れ」してほしくない	⑥就職するまでは「子離れ」しなくてもいい	⑦結婚するまでは「子離れ」しなくてもいい	⑧実家を出るまでは「子離れ」しなくてもいい	⑨どう考えればいいのかよくわからない
全体(N=2478)	13.4	17.2	29.7	12.6	11.3	13.7	3.4	5.7	21.9
【性別】									
男子(N=1282)	13.4	21.0	32.1	15.4	10.3	13.3	2.9	6.6	20.2
女子(N=1154)	13.8	13.6	28.2	9.8	12.9	14.6	4.2	4.9	24.4
【進路を考える際の気持ち】									
自分がどうなってしまうのか不安になる[不安層](N=1155)	13.4	16.4	29.9	11.3	13.4	15.7	3.5	5.6	23.0
自分の可能性が広がるようで、楽しい[楽観層](N=642)	10.7	15.3	31.2	13.4	9.5	14.5	4.4	6.9	20.7
進路のことより、もっと考えたいことがある[無関心層](N=163)	17.8	25.2	31.9	19.6	6.1	9.8	3.1	6.1	19.0
考えること自体が面倒臭い[無関心層](N=160)	15.0	20.0	33.1	13.1	11.3	11.9	1.9	5.6	23.8
今が楽しければいいので先のことは考えない[無関心層](N=122)	16.4	20.5	32.8	13.1	16.4	16.4	1.6	4.9	17.2
将来にいいことはなく考えてもつまらない[悲観層](N=85)	27.1	22.4	24.7	12.9	7.1	4.7	2.4	4.7	21.2

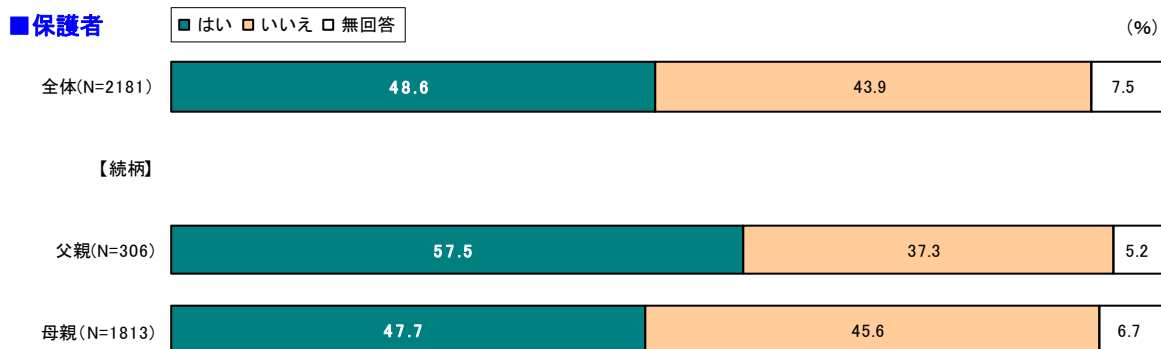
6-(3) 保護者の「子離れ」について …保護者

■ 「すでに子離れしている」保護者は49%

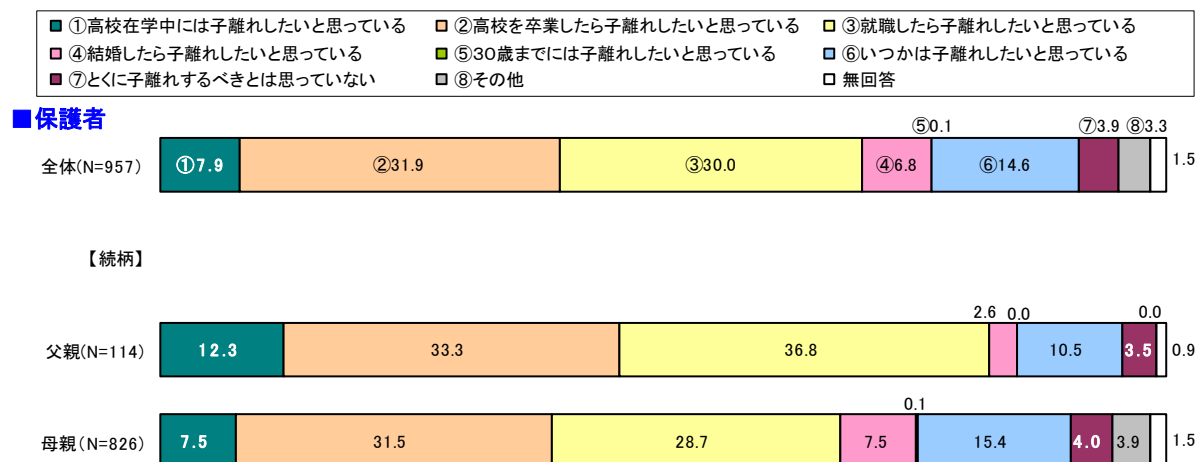
保護者にあなたは「子離れ」しているかと尋ねたところ、「はい」は半数に満たなかった。父親が母親よりも「子離れしている」との回答が多いが、ある時点から子離れしたというよりも、はじめから離れているという見方もできそうだ。

また、「子離れ」していないと答えた保護者に対しては、いつ「子離れ」するつもりかも聞いた。「①高校在学中には子離れしたい」が8%、「②高校を卒業したら～」「③就職したら～」まで足すと70%となった。

Q. あなたは「子離れ」しているか



Q. いつ「子離れ」するつもりか(上で「いいえ」と回答した保護者のみ) (%)



▼本調査に関するお問い合わせは、下記までお願いします。

(株)リクルート

キャリアガイダンス編集長 角田浩子 TEL03-5501-7372

e-mail:career@r.recruit.co.jp

※出版・印刷物等へデータ転載する際には、“(社)全国高等学校PTA連合会・(株)リクルート調べ”と明記していただきますようお願い申し上げます。

※この調査結果については、キャリア教育専門誌「キャリアガイダンス No.13」(リクルート)にも掲載しています。